



地域を支える新たな力「農福連携」 農業と福祉がつながる地域づくり

そう考えたのが現在の活動の原点です。協力隊時代にできた地域とのつながりが、今の土台になっています。」

（※現在は地域の農事組合法人などと連携し、農業の受託を通じて地域農業を支えています。）

働く場から、日々の暮らしまで

——現在の活動を通じた、地域への思いについて教えてください。

七條さん「現在は、日々の働く場だけでなく、生活の面からも利用者をサポートできる体制づくりを進めています。

目指しているのは、障がいのある人も地域でしっかりと役割を持ち、自分らしく暮らし続けられる町です。将来的には農業分野での一般就労につながる仕組みも考えながら、誰もが活躍できる環境を地域全体に広げて



いきたいですね。」

地域全体で広がる支え合いの輪

農業と福祉が手を取り合うことは、人手不足の解消だけでなく、誰もが地域の一員として暮らし続けられる環境づくりにつながります。

山都町内では、今回ご紹介した事例のほかにも、さまざまな形で農業と福祉が連携する取り組みが進められています。地域課題を支え合いながら解決につなげるこの輪が、今後さらに広がっていくことが期待されています。

木ごころワークとは

令和7年に開所した就労継続支援B型事業所です。一人一人の体調や得意分野に合わせた仕事を提供し、農作業などを通じて地域で働き続けられる環境づくりに取り組んでいます。

利用者の方の声

仕事を続ける自信につながった

開所当初から利用している丸山悟史さんと宇都宮聡さん（通称「ダブルさとし」さん）は、日々の農作業を通して「体力や仕事を続ける力が身についた」と話します。また、「困ったときはすぐに相談に乗ってもらえ、体調が悪いときは声をかけてもらえるので安心です」と、周囲の温かなサポートが働き続ける力になっていると笑顔を見せてくれました。



安心して働ける場所

今年4月から利用している早川久美子さんは、「以前は時間に追われる仕事でしたが、ここでは自分のペースで休憩を取りながら、安心して働いています。頑張った時にほめてもらえるのも励みです」と話します。「悩みを抱えている人にも、こういう働き方があることを知ってほしい」。自身の経験を踏まえ、地域で広がる新しい働き方への思いを笑顔で語ってくれました。



（左）農事組合法人いちよう職買 大城 知恵子さん
（中）木ごころワーク職員 本田 松代さん
（右）早川久美子さん

（左）丸山 悟史さん
（右）宇都宮 聡さん



住 所：〒861-3663 熊本県上益城郡山都町新小 886
施設名：就労継続支援B型木ごころワーク
（861-3516 熊本県上益城郡山都町千滝 7-1 グループホームきごころ）
連絡先：090-3972-0083（担当：七條）

「山都町総合計画とのつながり」

町では、障がいのある人が働き続けられる環境づくりや、農業の担い手確保を重要な施策として進めています。この二つを地域の中で掛け合わせ、支え合う仕組みとして期待されているのが、今回のテーマです。

農業の担い手不足と、障がいのある人の働く場づくり。一見別々に見える二つの課題を結びつけて解決を目指す「農福連携」の輪が、山都町でも少しずつ広がっています。今回は、その実践事例の一つとして、就労継続支援B型事業所「木ごころワーク」を運営する七條史弥さんに、障がいのある人が地域で自分らしく暮らせる町づくりへの思いを伺いました。



元地域おこし協力隊で（株）キゴゴロ取締役の七條史弥さん

地域とのつながりが 生まれた挑戦

——農業と福祉を結びつける活動を始めたきっかけはなんですか。

七條さん「山都町の地域おこし協力隊として『農事組合法人イチヨウ』に出向し、農業の現場に携わる中で、深刻な人手不足を実感しました。同時に、農家の皆さんとの交流を通して、農業と福祉が協力し合う考え方に出会ったんです。

『農業の担い手不足』と『障がいのある人の働く場づくり』、この二つを同時に支えられるのではないかと